



白聖

はくあ 第6号 令和8年6月24日発行



《大学に進学するってどういうこと？》

今年度最初に実施した第1回進路志望調査の結果をみると、殆どの生徒が4年制大学への進学を希望しています。しかし、果たしてどれほどの生徒が「大学に行くこと」を真剣に捉えているのでしょうか。皆さんの中には「周りの皆が大学に行くから、何となく…」なんて軽い考えの人もあるかもしれません。今回の進路通信では、『大学に進学するとはどういうことなのか』について改めて考えてみたいと思います。

【大学に行くのって何のため？】

大学は、自分で設定したテーマについて研究する場所です。一般教養や第2外国語も広く学びつつ、ゼミなど特有の学び方を通して専門科目を究めていきます。つまり、学問・研究を通して「教養」を身に付ける場所が大学なのです。就職を見据えて資格取得を重視し、スペシャリストを養成する専門学校などとは異なります。変化が激しく予測困難なこれからの時代は、「正解のない問い」に向き合い、自分なりの答えを見つける態度が求められます。深く考え、他者と議論し、多様性と変動に対処しつつ自分の頭で考える思考習慣のベースになるものが「教養」です。長い人生を快適にするスキルを鍛え、人生を生き抜く知恵を身につける場所が大学だと言えるでしょう。

【いい大学＝入試が難しい大学か？】

各大学・学部は「アドミッション・ポリシー」を定めています。こういう力を身につけ、こういう問題意識を持った学生に入学してほしいという「入学者受け入れ方針」を文書で示したものです。そのうえで、入学者選考試験を課し、学力や適性があると判断した受験生に合格通知を発行するわけです。偏差値や入試の難しさと大学の価値は決まりませんが、大学入試問題は大学からのメッセージ（これぐらいクリアできる学生を入学させたい）だと考えれば、高いハードルを課す大学は、高いレベルの教育・研究をしている矜持をもつ大学であると言えるでしょう。それはカリキュラム・ポリシー（教育課

程の編成）やディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）にも表れています。アドミッション・ポリシーをはじめとする大学側が提示している各種ポリシーについては、今後の進路通信でも詳しく解説していく予定です。

【受験を考えるのは3年生からでは遅い？】

高校入学の段階で、「部活動で本気で全国大会に行きたい」と思って入部する生徒は、3年間の総決算として相当な覚悟をもって最後の大会に臨みます。もしかすると高校入学以前から厳しい練習に励んできているかもしれません。一方で3年生になってから全国でも目指してみるかな…と軽く考える部員とは、明らかに意識が違います。実は大学受験も部活動と同様に、高校3年間の集大成として臨む場なのです。「3年生になってから」ではなく、「3年間かけて」自分にとって最高に価値のある場所＝志望校を決めていきましょう。探究学習の延長線上で総合型選抜を目指すにせよ、評定平均値を生かして学校推薦型選抜を目指すにせよ、一般選抜で学力勝負をするにせよ、3年間の日々の積み重ねが、大学入試の結果に反映されます。1年生から高い意識を保って毎日を送ってきた人が有利なのは明らかだと言えます。



【ラクして早く合格できる入試はあるか？】

多くの大学では、学校推薦型選抜や総合型選抜を実施しています。「年内入試」とも呼ばれるこれらの選抜方法について、「何となく楽そう」だとか「早く進路を決められる」というイメージを持っていないでしょうか。学校推薦型選抜や総合型選抜では、入学者受け入れ方針に沿った提出書類（志望理由書・活動報告書・学修計画書など）を出願段階で求め、面接・グループワーク・プレゼンテーション・小論文などの様々な試験を組み合わせ、学力だけでなく受験生の意欲・能力・適性を総合的に評価します。多面的な評価が行われるため、決して

【裏面に続く】

楽な入試ではありませんし、事前の試験対策にもかなりの時間と労力が必要になります。学生を集めたいがために形式的な選考方法でたやすく合格を出してしまう大学があるのも事実ですが、果たしてそのような大学は入学後のあなたを満足させてくれるのでしょうか。自分の頭で考え、自ら育つ力のある人を見分けるための試験を課す、つまり楽ではない入試を課す大学の方が信用できるのではないのでしょうか。

【旺文社 蛍雪時代より引用・抜粋】

大学入試の種類（学校推薦型選抜・総合型選抜・一般選抜）や、アドミッション・ポリシーなどの大学が掲げる様々な方針は、時代とともに多様化しています。進路通信では、今後数回に分けて大学受験や大学のポリシーについて解説していく予定ですので、しっかりと読んで進路選択に役立ててほしいと思います。

《総合型選抜・学校推薦型選抜集会》

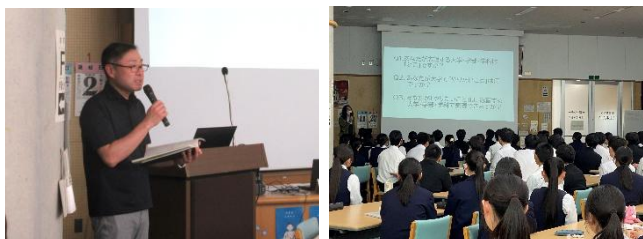
第1回：5月11日（月） 第2回：6月19日（金）

令和9年度入試において、総合型選抜・学校推薦型選抜での受験を考えている3年生に対し、2回に分けて選抜内容を解説する集会を実施しました。

5月11日に実施した第1回では、総合型・学校推薦型選抜に興味・関心を持っている約130名が参加しました。本校卒業生の総合型・学校推薦型の出願状況や合格実績を踏まえながら、試験の方式や種類について説明しました。自分のこれまでの学校生活を振り返って、本当に総合型・学校推薦型選抜に適性があるのかを改めて考える良い機会になったようです。

第2回は、約一ヵ月後の6月19日に実施され、総合型・学校推薦型で受験することを決意した約90名が参加しました。出願までの日程確認や準備しなければならない書類等について、具体的に何をいつまでにどの水準まで取り組むべきかを周知したことで、生徒の受験に臨む意識に大きな変化が感じられる集会となりました。

以下は集会に参加した生徒の感想の一部です。



- ◆総合型・学校推薦型選抜は非常に狭き門で、たくさんの時間をかけ準備をすることが欠かせないのだと感じた。また、何をしてきたのかはもちろんだが、それを通して学んできたことを自分の言葉で相手にわかりやすく伝えることが重要なのだと改めて気付かされた。
- ◆受験はどんな入試方式でも難しいことは変わりなく、しっかりと対策をして臨まなければならないとわかった。丁寧に考えたうえで自分がどの入試方法を選択すべきなのかを考えたい。
- ◆総合型・推薦型に挑戦するにあたって当然共通テストとの勉強の両立が必要なので、これまで以上に時間の使い方を効率良くしていこうという気持ちが生まれた。また、強い気持ちを持ってどんな結果になっても最後まで受験を諦めないようにすることが大切だと知ったので、それを心に刻んで勉強していきたい。
- ◆大学のアドミッション・ポリシーを深く理解して、学びたい学問に対する熱意や将来のビジョンを詳細に述べられる人が合格する人であると分かった。
- ◆総合型選抜は学力だけではなく、志望理由や高校生活で頑張ったこと、入学後に学びたいことや研究したいことなどを深く見られるため、普段から自分の経験を振り返っておくことが大切だと感じた。また、総合型選抜には色々な書類や練習が必要で、準備に想像以上に時間がかかりそうだったと思うが、それでも総合型選抜には挑戦してみたい。
- ◆総合型・学校推薦型を受けるにあたっての心構えを再認識した。自分のために書類の確認や作成、指導に時間を割いてくださる先生方に感謝を忘れないこと、不測の事態に備えて期限や時間には余裕を持って行動することを今から心がけていきたい。
- ◆集会を通して、出願から逆算して計画を立てて、本気で総合型の対策をしなければならなかった。そのために志望理由書を早めに完成させて、自分がなぜその大学に行きたいのかをはっきりさせ、モチベーションを保っていきたい。
- ◆時間や日程を守るといった自己管理を大切に、勉強と面接や志望理由書の対策を両立できるようにする。
- ◆実際に個別指導申込書の書類を受け取ったり詳しい日程の説明を受けたりして、今まで以上に受験に対する覚悟ができた。中間考査が終わって気を抜くのではなく、より一層力を入れて勉強に取り組みみたい。